

群 教 セ	G10 - 01
	平 26. 254 集
	道 徳

自己の生き方を考える児童を育てる 道徳指導の工夫

—道徳の時間と日常生活を結び付ける書く活動の充実を通して—

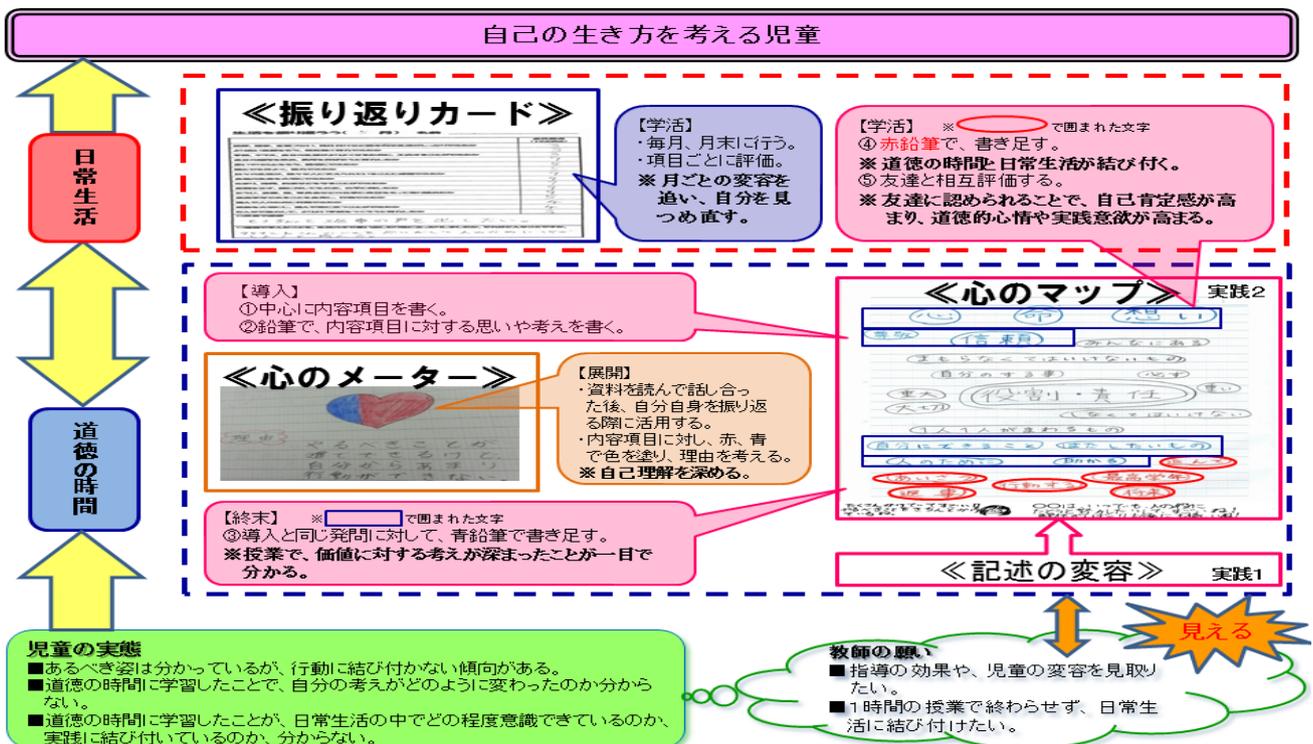
特別研修員 天田 雅士

I 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領解説道徳編の第2章の第4節(2)や、群馬県教育委員会のはばたく群馬の指導プランにおいて、自分自身の感じ方や考え方の変化を確かめたり、心の成長を実感したりできるような書く活動の充実や、授業での学びを生活と結び付けるための工夫が必要であると示されている。道徳教育は、道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行うものである。日常生活の様々な場面において、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることが大切である。しかし、それ以前に、道徳の時間で学習したことと児童の日常生活とがなかなか結び付かないという課題がある。道徳の時間で学習したことが、児童の日常生活の中でどの程度意識されているのか、実践に結び付いているのか、といったことは目に見えないため、児童本人はもちろん、教師も分かりにくい。そこで、道徳の時間と日常生活を結び付けるための書く活動を充実させることにより、自己の生き方を考える児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

道徳の時間と、日常の生活を結び付けて考えることができるような書く活動の工夫を行った。児童の実態から、内容項目4-(3)「役割・責任」において、以下の点に留意して実践を試みた。

実践1における研究上の手立て

- ・導入と終末で内容項目に関わる同じ発問をし、記述を比較することで自分の考えの変容に気付く。
- ・資料から離れ、自分を振り返る際に、心のメーターを書くことで自己理解や人間理解を深める。
- ・学活において、振り返りカードを記入し、自己の生き方を振り返ると共に変容を見つめる。

資料「キャプテンとして」（東京書籍「明日をめざして」）を扱った。導入で「役割・責任はなぜ大切だと思いますか」と発問し、ノートに記述させた。児童の記述は、「自分」に視点を当てたものが目立った。終末で同じ発問をして、ノートに記述させると、「他者」に視点を当てた記述がほぼ全員に見られた。また、資料から離れ、自分を振り返る際に、日常生活において役割・責任を果たしている→赤、果たしていない→青で心のメーターを書かせ、なぜそのような色になったのかを考えさせた。心のメーターを書かせることで、現状が視覚的に捉えられ、価値の大切さは分かるが、実践は難しいことを実感できた。

以上をふまえ、終末で感想を書かせると、児童は価値を深く自覚し、自分自身を見つめ、今後の生活をどうしていきたいかということを考え、記述していた。毎月末の学活において、振り返りカードを使って振り返りを行うことで、自己の生き方を振り返ると共に、変容を見つめることができた。しかし、導入と終末の記述を比較することが難しい児童もいることや、振り返りカードだけでは、道徳の時間と日常生活を結び付けて自己の生き方を考えられないため、実践2では手立てを以下のように改善した。

実践2における研究上の手立て

- ・導入と終末で内容項目に関わる同じ発問をし、心のマップに自分の考えを書き、授業を通して自分の考えがどのように変容したのか、視覚的に捉えられるようにする。
- ・心のマップを学活でも活用し、日常生活と結び付けられるようにする。

資料「小川笙船」（文部科学省「私たちの道徳」）を扱った。導入で「役割・責任」に対する自分の考えとしてノートに心のマップを書いた。授業を通して得た気付きを基に、終末に心のマップに青で追記させた。その後、学活の時間に、「日常生活において、道徳の時間に学習したことを思い出したり、考えたり、実践した（しようとした）りしたこと」などを赤で追記させた。それらにより児童は、価値の自覚が深まり、学んだことが日常生活にどの程度結び付いているのかを視覚的に捉えることができた。赤で追記させた後、友だちと交流し、それぞれの心のマップにメッセージを書かせたことで、道徳的心情や実践意欲が高まった姿が見られた。

III 研究のまとめ

1 成果

- 心のマップなど、書く活動を充実したことにより、児童は道徳の時間と日常生活を結び付けて、自己の生き方を考えることができた(図1)。
- 教師も指導の効果や児童の変容を、広い視点で見取ることができた。

2 課題

- 心のマップの更なる改善や、活用方法の検討が必要である。マップに追記された言葉の真意を読み取ることが、教師にとっても難しい場合があるため、書かせ方の改善が必要である。
- 全教育活動と関連付けて、計画的に道徳の時間を実施する必要がある。

3 提言

- 心のマップなど、道徳の時間と日常生活とを結び付ける手立てを講じることにより、児童は価値を自覚し、自分自身を見つめ、自己の生き方を考えることができるようになる。全教育活動と関連付けて、計画的に道徳の時間を実施することで、更に効果が高まると考えられる。

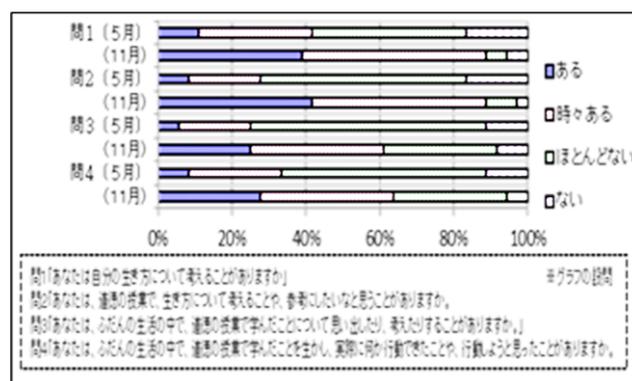


図1 児童アンケート結果

<授業実践>

実践 1

- 1 主題名 自分の役割とは 内容項目 4 - (3) (第6学年・1学期)
資料名 「キャプテンとして」東京書籍

2 資料及び本時について

本時は、「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。」ことをねらいとした。本資料は、ミニバスケットボールのチームで憧れのキャプテンとなった「ぼく」が主人公である。「ぼく」は、キャプテンとして率先して動かず、指示や注意ばかりを重ねていく。その結果、徐々にチームの仲間との溝が深まり、反発が高まる。「ぼく」は悩む中、思い切ってコーチに相談することで、キャプテンとして在るべき姿に気付く。「ぼく」とチームの仲間の気持ちや、行動の変化について考えることを通して、自分が役割・責任を果たすことで、周囲に与える影響の大きさに気付かせた。そして、一人一人が集団における自分自身の役割や責任を自覚するとともに、協力して集団の向上のために役立とうとする態度を養うために、次のような書く活動の工夫を行った。

3 授業の実際

初めに、役割・責任に関わるアンケート結果を示すことで、価値への方向付けを行った。そして、「役割・責任を果たすことは、なぜ大切なのでしょう。」と発問し、ノートに書かせた。

「役割・責任を果たすことは、なぜ大切なのでしょう。」という発問に対する、児童の記述

《多数の意見》

- ・自分に自信がつくから。
- ・大人になった時に、役割・責任を果たした経験が役に立つから。
- ・大人になって困るから。
- ・自分の心を育てられるから。
- ・自分自身の成長につながるから。
- ・役割・責任を果たすことで、達成感があるから。

《少数の意見》

- ・一人一人の役割が集まることで、一つの大きな力となるから。
- ・人に迷惑をかけるから。
- ・やらないと誰かが困るから。
- ・自分がやることで、他の人にも自分でやる、という気持ちを持たせるから。
- ・みんなの笑顔が見たいから。

資料を前半と後半に区切って読んだ。憧れていたキャプテンになった時のぼくの前向きな気持ちを捉えた。次に、6年生が言うことを聞いてくれない時のぼくの気持ちを考えた。一生懸命やっていたのに、どうして分かってもらえないのだ、なぜだ、というぼくの葛藤する気持ちをおさえた。そして、次の中心発問を行った。

「君が変わればみんなも変わる」というコーチの言葉を聞いたぼくは、この後どう変わったと思いますか。

ノートに自分の考えを書かせた。その後、自分の考えを深めるためにペアで意見交流をしてから、全体で確認した。児童は、「人一倍努力するようになった」、「みんなの気持ちを考えて動くようになった」、「自分から行動するようになった」などの意見を持った。また、「そのような姿が信頼につながるのだ」という考えも出てきた。そして、資料後半を読み、キャプテンの姿からチームの仲間が変わっていく様子について考えた。児童は、「キャプテンが変わった(がんばっている)のだから、自分たちもがんばろう」、「キャプテンを支えよう」という気持ちの変



図2 心のメーター

化をとらえた。

その後、資料から離れ、自分自身の振り返りを行った。「学校のリーダーとして、学級の一員として、様々な役割・責任があります。今、あなたはみんなのために、どれくらいがんばれていますか」と問い、ハートマークをノートに書かせ、がんばれている→赤で、がんばれていない→青で塗らせた(前頁図2)。各自、どうしてそのように塗ったのかを考えさせて、近くの席の児童と交流した。ここで、導入と同じ「役割・責任を果たすことは、なぜ大切なのでしょうか。」という発問をした。

「役割・責任を果たすことは、なぜ大切なのでしょうか。」という発問に対する、児童の記述

《多数の意見》

- ・周りに影響を与えるから。
- ・まずは自分から行動することで、周りが変わるから。
- ・自分のためではなく、人のために行動することが大切だから。
- ・役割を果たすと、みんなに信頼してもらえるから。

最後に、「心のメーターをどうしてそのように塗ったか」、「導入と終末でなぜ同じ発問に対する記述が変わったか」の二点について考えながら、感想を書いた(図3)。

児童の感想

- ・(心のメーターの)青い部分の理由は、今までの自分を振り返って、人のためにあまり動けていなかったな、と感じたからです。今日の道徳の勉強で、人のために役割や責任を果たさなければいけないのだと思いました。これからは、当番やそうじも、6年生としてお手本になるように、がんばっていきたいです。
- ・最初は自分のことばかり考えていたけれど、「キャプテンとして」を勉強して、自分のことよりも人のことを考えて行動しようと思いました。私は児童会なので、「人のために」をいつも考えて行動していきたいです。

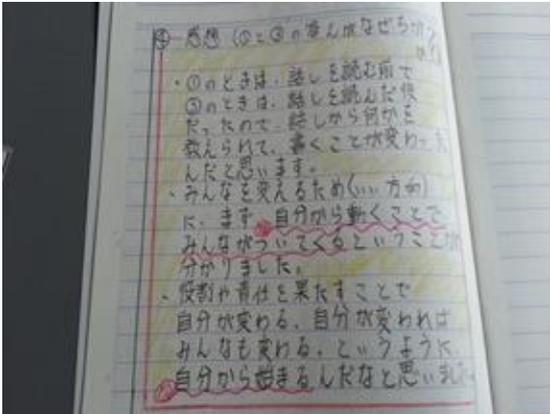


図3 児童の感想

その後、毎月末の学活において振り返りカードを用いて、自己評価の変容を見つめた(図4)。

4 考察

- 導入と終末で内容項目に関わる同じ発問をすることにより、道徳の時間で学んだことが、児童の中で明確になり、価値の自覚を深めることにつながった。
- 資料から離れ、自分自身を振り返る際に、心のメーターを書かせ、色を塗った理由を考えさせることで、「道徳的価値は大切ということは分かるが、実践は難しい」という人間理解や、価値に対する自己理解につながった。
- 上記2点をふまえ、感想を書かせることにより、自己の生き方を考えることができた。
- 導入と終末で行った内容項目に関わる同じ発問に対し、記述の変化を考えることが難しい児童もいるため、もっと簡潔で、一目で分かるような工夫が必要である。
- 振り返りカードによって、自己の現状を数値化して客観的に見つめることができた。しかし、道徳の時間で学習したことと、日常生活の振り返りを関連付ける工夫が必要である。

生活を振り返ろう(5月) 名前 _____

	自己評価 (10段階)
朝の挨拶、言葉づかい、服装や身のこなしがよいですか	3
お友達や先生を思いやり、協力し合える力がありますか	3
学校、クラス、自分の生活がよくなるように、工夫することがありますか	3
自分の個性や才能、長所や短所をよく知りませんか	7
思いやりや思いやり、思いやりですか	5
誰かのためにも、協力しますか	5
自分の生活が、他の人に支えられていることに感謝しますか	7
自分の生活が、他の人に支えられていることに感謝しますか	9
お友達、先生、お父さんお母さんや周りの大人とよく話せますか	9
毎朝早起きして学校に行きますか	5
一人で人のために行動しますか	4
誰かのためにも、協力しますか	4
お友達や先生、お父さんお母さんや周りの大人とよく話せますか	3
○感想や目標	
もっと返事の音を出したい。	
○道徳で学んだことを、日常生活で思いやりや協力し合える力、自分の生活がよくなるように、工夫したい。	

図4 振り返りカード

実践 2

- 1 主題名 役割を自覚して 内容項目 4 - (3) (第6学年2学期)
資料名 「小川 笙船」文部科学省

2 資料及び本時について

本時は、「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす」ことをねらいとした。本資料は、徳川吉宗の享保の改革において、江戸の貧しい病人の惨状を訴え、小石川養生所の開設に関わった医師、小川笙船の実話を基にしたものである。貧しさのあまり行き倒れた定吉に、医師として無償で診療を施した笙船は、殿様に江戸の貧しい病人にまつわる惨状を訴え、小石川養生所の開設にたどり着く。若い医師に対して熱心に指導を行い、江戸の町を何とかしようとする笙船の真摯な姿が描かれている。また、治療を受け元気になった定吉や、大根を持ってきた男が、今の自分にできる精一杯のことをやることで、笙船に恩返しをした姿も描かれている。

笙船の姿から、より良い集団や社会の実現を願い、自分の役割を拓げていくことの大切さを感じ取らせることができると考えた。そこで、笙船の行為で素晴らしいと感じた場面を選ばせた。次に、笙船の根底にある想いや考えについて交流させていく中で、笙船が医師としての役割を拓げていることや、江戸の町を救うために医師としての責任感に突き動かされたことを捉えさせた。また、定吉や大根を持ってきた男の行動や思いについて考えさせることで、集団の中で役割を自覚し、自分にできる精一杯の責任を果たそうとする姿を通して、役割・責任の価値を深めていける資料であると考えた。

3 授業の実際

初めに、役割・責任に関わるアンケート結果を示すことで、価値への方向付けを行った。そして、「役割・責任」について、終末で、学習して得たことを、青鉛筆で追記することを確認してから、ノートに心のマップをまとめた(図5)。

資料に入る前に、小川笙船が生きた時代背景が分からないと、資料を深く読み取れないため、社会科で学習した江戸時代の暮らしについて復習した。ポイントは、①江戸時代は全期を通して寒冷であったこと。②飢饉が頻繁に起きていたこと。③多くが、その日暮らしの生活をしてきたこと。④小さな村などは、村で医師を雇い、安く医療を受けられるようにしていたこと。それに対し、江戸の人口は100万人。出入りが多いため、幕府として医師を雇うことが難しかったこと。⑤昔の医療費が高額であったこと。などである。これらを知らないと、道端で倒れていた定吉を助けた笙船の本当のすごさが分からない。児童は、たまたま倒れていた人を助けた、という感覚に陥ってしまう。また、無料の医療施設を、特に貧しい生活をしてきた人々に対して作ったことの価値も分からない。これらを確認した上で、資料を読んでいく。

まず、笙船の行動で素晴らしいと思うところを選ばせ、どうして素晴らしいと思ったかについて考えさせた。そして、考えを深めるために、意見交流を行った。児童は、「医師としての役割や責任感に突き動かされたこと。」を挙げた。また、多忙な中、若い医師を育てたのは、「これからの江戸の人々を考えて」の行動であったことを確認した。その後、養生所が全国に広がっていったことを伝えた。さらに、笙船以外にも役割・責任を果たしている人がいることに触れ、定吉や大根を持ってきた男の行動に着目させた。これらについて個人で考えた後、グループで意見交流した。児童は、「助けてもらった恩返し」「感謝」「人のために役立ちたい」「お金が払えないから、せめて今の自分にできることを」などを挙げた。終末で、心のマップに青鉛筆で追記させた。



図5 ノートに心のマップをまとめる

心のマップについて

- ・ノート1ページにまとめる。
- ・マインドマップのように、放射状に書くが、線で結ばない。
- ・様々な内容項目に対応できる。

◇道徳の時間◇

【導入】

役割・責任とは何ですか。心のマップにまとめます

- ・中心に内容項目「役割・責任」を書く。
- ・鉛筆で、内容項目に対する思いや考えを書く。

【終末】

役割・責任とは何ですか。心のマップにまとめます

- ・内容項目に対する思いや考えを、青鉛筆で書き足す。 四角囲み

※授業で、価値の自覚が深まったことが一目で分かる(図6)。

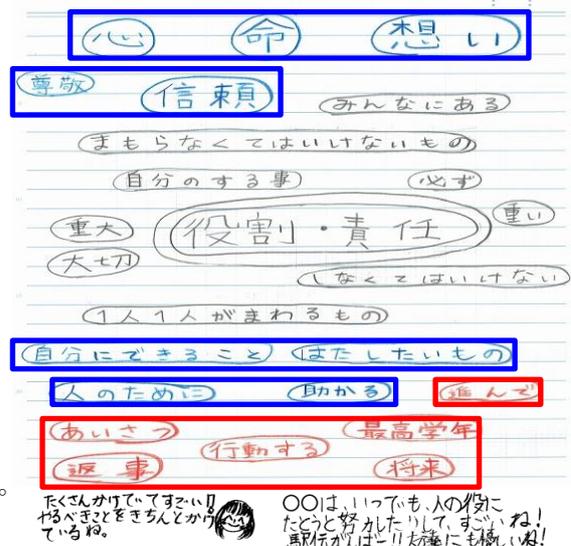


図6 心のマップ

◇学活の時間◇

- ・道徳の時間の後に「日常生活で考えたこと、思ったこと、行動したこと（しようとしたこと）」などについて、赤鉛筆で書き足す。 丸囲み
- ・週に一度、振り返りを行う。
- ・前回の道徳の時間の振り返りが終わったら、以前学習したどのページに戻って書き足しても良い。

※日常生活と道徳の時間が結び付く。

- ・友達と交流し、メッセージを書いてもらう。

※友達の心のマップを見ることで、価値に対する自分の考えを深めたり、自分自身を見つめたりすることができる。また、もらったメッセージにより自己肯定感が高まり、道徳的心情や実践意欲が高まる。

その後、心のメーターを書かせて、自分自身の振り返りをさせた。心のメーターや、心のマップを基にして、感想を書いた。

児童の感想

- ・笙船さんの周りの人に対する思いや行動がすごいと思いました。それは、自分のためではなく、人のために行動しているからです。それだけでなく、これから先の未来のことまで考えていました。私は、まだまだ学校のために、というところまで考えられていません。卒業まで残り少なくなってきました。少しでもよい伝統を残せるように、まずは自分から行動していきたいです。
- ・この道徳をして、責任・役割がどれほど大切か、改めて分かりました。ハートの青い部分がまだまだあるので、少しでも赤に変えていけるようにしていきたいです。例えば、この間の朝会でも、校歌の音が小さかったので、これからは大きな声で歌うようにします。

上記のように、児童は自分自身を振り返り、今までの自分と、これからの目標を重ね合わせながら、役割・責任を果たすことの大切さについて、考えを深めることができた。後日、学活の時間で、心のマップに追記させた。全員の児童が、日常生活を振り返りながら、赤鉛筆で追記することができていた。

4 考察

- 心のマップにより、児童は価値の自覚が深まったことを視覚的にとらえることができ、自己の変容について見つめることができた。また、道徳の時間と日常生活を結び付けて、考えられるようになった。

<参考文献> 青木利雄 著「書く活動の工夫でよく考える児童を育てる」

『道徳と特別活動』 文溪堂 2007年2月号より